



# 子育て支援における コミュニティ・アプローチ —専門家・非専門家による連携と協働—

岡 桃子  
(福祉学科教員)

## I. 専門分野

子ども家庭福祉、子育て支援におけるコミュニティ・アプローチ、児童虐待における予防的介入

## II. 実践からの学び・今後の課題

### 1. コミュニティ心理学の視座に基づいた臨床現場サポート体制の構築

学生時代に出会ったコミュニティ心理学とは、様々な異なる身体的心理的社会的文化的条件をもつ人々が、だれもが切りすてられることなく共に生きることを模索する中で、「人と環境の適合性を最大にする」ための基礎知識と方略に関して、実際におこる様々な問題の解決に具体的に参加しながら研究をすすめる学問である。個人への相談援助だけでなく、援助する専門家集団をサポートするために必要な知見の提供、体制づくりのため、コミュニティ資源を活用・調整、開発し、専門家のみならず非専門家を含めたコミュニティの人びとの協働システム、サービス体系を構築することをめざしている。

厚生労働省の調べでは、全国の児童相談所が2014年度に対応した児童虐待の件数は、前年度比20.4%増の8万8,931件に上っている(厚生労働省, 2015)。この数字は、調査が開始された1990年度(1,011件)の約80倍にあたり、24年連続で過去最多を更新していることになる。

筆者は、児童虐待防止を主たる目的として設置された子ども家庭支援センターにおいてソーシャルワーカー(社会福祉士)として経験を積みながら、児童虐待という事象が抱える背景の複雑さを痛感した。一個人や一機関のみが孤立して葛藤を抱えることのないよう、連携・協働のためのネットワークを構築していく必要がある。臨床現場の環境(職員の姿勢・チームワーク・物理的施設環境)を整えることが、安定・充実したケースワークに直結する。以下のテーマについて、

コミュニティ心理学の視座に基づきながら、課題整理と調査研究を継続し、現場で活かされる成果へとつなげていきたい。

#### 1) 援助する専門家集団へのサポート

児童虐待への対応において、多様な連携機関と協働していくことの困難さは想像を絶するものであった。緊急対応時には迅速な判断が求められるワーカーにとって、まず、自身の置かれている所内のチームワークが円滑でない想定以上の精神的負担を抱えることになり、逆に所内のチームワークが万全であればどんなに難しい局面においても乗り越えることが容易であった。コミュニティを支援者側でも構築し、所内チームワーク、地域ネットワークの協働体制が信頼関係のもとに積み重ねられたときには、地域コミュニティ全体のもつ児童虐待への対応力の確かな向上を体感した。ネットワーク構築の調整・運営役を担う存在が要となる。

#### 2) 非専門家との連携体制の構築

児童虐待相談や子育て支援の現場では、ワーカーは膨大なケース数を抱えており、ひとつの家庭・児童にあてられる面接回数や訪問回数には限度がある。ボランティアなど非専門家との連携が求められ、各自治体や児童相談所等では大学生等による学習ボランティア募集・登録がなされているが、なかなか継続的に機能していない現状がある。困難ケースほどボランティアの力を必要とするが、同時にその対応には慎重さも求められる。ボランティア体制が安定して継続的に機能していくためには、現場とボランティアの信頼関係が構築されなければならない、定期的なスーパーバイズなどサポート体制の構築が必要であろう。

## 2. 学生（実習生）育成に対する想いと期待

助手時代より心掛けていることについて、拙著より抜粋する。「緊張や迷いで自分の想いをなかなか言葉で表現できない学生もいます。また張り切っていた学生でも、いざ実習が始まると現場でのコミュニケーションの難しさなどに悩み、『自分が何をしたかったのか分からなくなりました』と、涙ながらに電話をくれることもあります。そんなとき私は、『人を援助するためには、自分について客観的に知ることや、人に想いを伝える難しさを知っているということが、とても大きな意味をもつはずですよ』と学生に伝えてきました。私自身がそうしてもらってきたように、学生の持つ力を信じたいと思っています」（2009「福祉を学ぶお手伝い」『立教』第208号：p.53）。

地域コミュニティにおける子育て支援の援助者は、専門性を備えていることと同時に、養育者が自分の子育てを評価される意識をもたずに些細なことでも相談できるよう、親子の生活に寄り添い養育者とともに考え、ともに子育てをする姿勢が大切であると考え。そのためには親しみやすく門戸が開かれている組織作

りを心がけることが重要であり、過酷な実習現場で自己と向き合い奮闘する実習生が少しでも気づきを得られるために、時に厳しく指導しながらも、学生に常に寄り添うよう尽力したい。

学部理念であるいのちの尊厳のために、人が生きる力を与え合い、環境が個人に適合する社会を目指し、その実現に貢献できる高度な専門性と豊かな人間性、人間と社会に関する様々な問題に対して実際に参加しながら多角的に考えられる力をはぐくむ学生育成に携わっていきたい。学部を立ち上げた先生方が徐々に退官される時期を迎える中で、一期生として現場で培った経験を母校に還元し、学生たちとともに学部の伝統と未来を築くために貢献したいと考える。

### Ⅲ. 主たる研究テーマに関連する過去の論文概要

後述する研究業績の中より、主たる研究テーマに関連した論文について要旨を述べる。

#### 1. 岡桃子 (2016) 「子ども家庭支援センターにおける連携と協働ー児童虐待通告への対応を中心に」. 箕口雅博編『コミュニティ・アプローチの実践ー連携と協働とアドラー心理学ー』遠見書房：pp.115-122.

現代社会の多様な局面において、複雑で深刻な心理社会的問題が噴出し、心理援助を必要とする人びとが急増している。これらの心理社会的問題の解決ニーズに心理援助の専門家が応えるにあたり、コミュニティの様々な人びととの連携と協働にもとづき、社会に開かれた心理援助サービスが求められている。多領域にわたるコミュニティ・アプローチの実践について、現場における連携と協働にもとづくコミュニティ援助の実践に、コミュニティ心理学とアドラー心理学の考え方と方法をどのように活用しているか、成果と課題について検討するのが、本書の企画趣旨である。

本稿では、筆者が専門相談員として勤務していた子ども家庭支援センターにおける連携と協働について、児童虐待通告（以下、通告）への対応を中心に、子ども家庭支援センターの地域コミュニティにおける役割の観点から考察する。通告が困難な事例として保育園からの通告事例を挙げ、子どもの安全を共通目標とする保護者も含めた地域の人びとの協働において、いかに日頃からの相互信頼による横の関係構築が要となるか、いかにして他者を勇気づけることが可能となるのか、コミュニティ心理学とアドラー心理学の交叉する援助実践を具体的に掘り下げていく。「通告は告げ口ではなく、家庭を孤立させずに地域で支え合う機会となりえる」という共通認識のもと、虐待を重篤化させない予防的取組みを目指したネットワークを構築することが重要である。

## 2. 岡桃子 (2011) 「子どもの暴力を防ぐために」 浅井春夫編『児童福祉施設・児童相談所・学校 子どもの暴力対応実践マニュアル』建帛社：pp.69-74.

子どもにかかわる福祉・教育・保育・保健などの領域で、暴力をめぐってさまざまな局面に対峙しなければならない現実が増えてきている。現場実践で直面する子どもとのかかわりの局面、職員集団としての対応と連携のあり方など組織運営上の局面、子どもの権利保障の在り方、現代社会の進路をめぐる社会と歴史の局面など異なる局面を総合的に視野に入れておくことが専門職には求められている。本書は、そうした課題意識を共有しながら、現場の最前線にいる実践者と研究者が共同して作り出したものである。本書の内容は、朝日新聞厚生文化事業団、社会福祉事業研究開発基金の研究助成を受けて実施した、全国の児童相談所一時保護所へのアンケート調査とインタビュー調査内容を分析し、2年間に及ぶ一時保護所研究会での研究討議の成果を盛り込んでいる。

本稿では、児童相談所一時保護所インタビュー調査の中で共通して浮かび上がった、児童福祉施設で日常的に取り組まれるべき、暴力問題の予防的対応を整理している。調査結果は、「安心できる子どもの生活」、「施設環境・職員構成の向上」と大きく分類した。前者においては、暴力行動は子どもが不安を持ち続けた結果起こりうると捉え、子どもの安心のために必要な職員の姿勢や業務の仕組みについて考察している。後者においては、選択の余地なく入所させられた子どもたちに問題行動を起こさせまいと、ストレスに上手に向き合うよう期待するよりも、むしろ「子どもたちがイライラを引き起こす環境の方にフォーカスする必要がある」という視点から、改善が求められる取り組みをまとめている。

## IV. 研究業績

### 1. 著書・論文・報告書・寄稿文など

岡桃子 (2004) 「住環境と家庭内葛藤を抱える個人の相互作用に関する一考察～整理整頓行動のおよぼす効果について～」『立教大学コミュニティ福祉学研究所紀要』2：pp.55-61.

岡桃子 (2009) 「福祉を学ぶお手伝い」『立教』第208号：p.53.

岡桃子 (2011) 「家族コミュニティとの距離が青年期における家族との相互作用におよぼす影響～PAC分析インタビューを用いて～」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第13号：pp.57-70.

岡桃子 (2011) 「子どもの暴力を防ぐために」 浅井春夫編『児童福祉施設・児童相談所・学校 子どもの暴力対応実践マニュアル』建帛社：pp.69-74.

大澤朋子・和秀俊・岡桃子・鈴木勲 (2011) 「一時保護所の子どもの暴力予防のためのアプローチモデルの構築 (共著)」『子どもの虐待とネグレクト』13 (1)：pp.15-31.

- 岡桃子 (2012) 「インタビュー調査から見える対応方法と課題」 浅井春夫編『児童相談所一時保護所における子どもの暴力問題の考察と提言－全国アンケート調査とインタビュー調査を踏まえて－』朝日新聞社・朝日新聞厚生文化事業団「子どもへの暴力防止プロジェクト」研究助成報告書：pp.57-67.
- 岡桃子 (2012) 「子どもの「家族」を支える」立教大学コミュニティ福祉学会『まなびあい』第5号：pp.137-138.
- 大澤朋子・岡桃子 (2013) 「世界の子ども家庭福祉の動向 (分担執筆)」. 浅井春夫編『シードブック子ども家庭福祉第2版』建帛社：pp.178-179, pp.182-184.
- 岡桃子 (2016) 「子ども家庭支援センターにおける連携と協働－児童虐待通告への対応を中心に」. 箕川雅博編『コミュニティ・アプローチの実践－連携と協働とアドラー心理学－』遠見書房：pp.115-122.

## 2. 学会発表など

- 岡桃子 (2007) 「家族コミュニティとの距離が青年期における家族との相互作用におよぼす影響～PAC分析インタビューを用いて～」『日本コミュニティ心理学会第10回大会発表論文集』：pp.76-77.
- 須賀田真理・米山祐子・星野大輔・岡桃子 (2008) 「家庭児童相談室における児童虐待への予防的アプローチ～A市実践活動からの一考察～」『日本コミュニティ心理学会第11回大会発表論文集』：pp.84-85.
- 大澤朋子・和秀俊・岡桃子 (2010) 「一時保護所の危機的状況発生の実態－効果的な予防・介入方法の解明に向けて」『日本子ども虐待防止学会第16回学術集会くまもと大会抄録集』：p127.
- 大澤朋子・岡桃子 (2011) 「インタビュー調査の結果と考察」分科会「児童相談所一時保護所における子どもの暴力問題の捉え方と『危機対応実践マニュアル』の提起」『日本子ども虐待防止学会第17回学術集会いばらき大会抄録集』：pp.150-151.
- 岡桃子 (2012) 「インタビュー調査から見える対応方法と課題－児童相談所一時保護所責任者へのインタビュー調査の分析から－」『全国児童相談所一時保護所研究セミナー』
- 岡桃子・久野光雄・小栗香奈子・須賀田真理・山本耕太・米山祐子 (2016) 自主ワークショップ「若手・中堅心理士が考えるコミュニティ・アプローチ」『日本コミュニティ心理学会第19回大会発表論文集』：p.28.

## V. その他活動 (所属学会・実践歴・講師歴など)

### 1. 所属学会

日本コミュニティ心理学会、日本子ども虐待防止学会、日本子ども家庭福祉学会

## 2. 臨床実践

- ・ 駒場留学生会館 留学生対象集団ボディワーク 参加 (2002～2005年度)
- ・ 立教大学新座キャンパス臨床心理相談室 プレイセラピー担当 (2003～2005年度)
- ・ 志木市教育サービスセンターにおける軽度発達障害児に対するSSTグループワーク アシスタント (2005年度)
- ・ 八王子市子ども家庭支援センター 子ども家庭支援ワーカー及び専門相談員：社会福祉士 (2011～2015年度)

## 3. 講師歴

- ・ 学校法人松山学園松山福祉専門学校 非常勤講師 (2010～2015年度)
- ・ 八王子市児童青少年課職員研修会「児童虐待予防における事例検討」講師 (2013年度)
- ・ 立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科「社会福祉援助技術演習1・2」ゲスト講師 (2013～2015年度)
- ・ 秋草学園短期大学「児童家庭福祉」～児童家庭福祉の専門職～ゲスト講師 (2015年度)
- ・ 新座市北部第二地区地域福祉推進協議会地域ささえあいネット特別勉強会「八王子市における虐待対応と子育て支援の現場から」ゲスト講師 (2015年度)

## VI. 参考文献

- 浅井健史 (2013) 「勇気づけ」をもたらす非専門家の関わり—エピソードの分析による態様とプロセスの検討. 日本コミュニティ心理学会第16回大会発表論文集：pp. 98-99.
- 厚生労働省 (2015) 「児童虐待の定義と現状」  
[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo\\_kosodate/dv/about.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/about.html) (2015年12月21日)
- 野田忠 (2013) 「虐待相談における子ども家庭支援センターとの協働」. 『子どもと福祉』6 明石書店：pp. 82-83.
- 千賀則史 (2015) 「子ども虐待対応における家族再統合に向けた協働的心理援助モデルの構築と実践的検討」. 『心理臨床学研究』33 (2) 日本心理臨床学会：pp. 161-172.
- 高岡昂太 (2013) 『子ども虐待へのアウトリーチ：他機関連携による困難事例への対応』 東京大学出版会
- 渡辺顕一郎・金山美和子 (2015) 『家庭支援の理論と方法—保育・子育て・障害児支援・虐待予防を中心に—』 金子書房
- 山本和郎 (1986) 『コミュニティ心理学 地域臨床の理論と実践』 東京大学出版会